



〈特集：企業セミナー（第33回年次学術集会より）〉

序文（巻頭言）：「企業セミナー」

濱野 貴磨

Preface: Corporate Seminar

Takama Hamano

Summary The 33rd Annual Meeting of the Society of Analytical Bio-Science (chaired by Hironori Ikeda) was held online on March 4th and 5th of 2023 under the theme “New Developments in Clinical Testing: Focusing on the post pandemic.” We solicited abstracts from companies to obtain information on various findings and new analytical technologies, and five companies delivered lectures.

Clinical testing is indispensable for the early detection of various diseases, determination of therapeutic effects, and revision of treatment guidelines and protocols. The establishment of new analytical techniques and development of new measurement systems is supported by the tireless efforts of companies. I hope that this corporate seminar will serve as a guidepost for clinical laboratories moving toward “with COVID” and “after COVID.”

Key words: Establishment of analytical techniques, Development of new measuring systems, After COVID, Company seminar

第33回生物試料分析科学会年次学術集会（池田弘典集会長）は「臨床検査の新たな展開～afterコロナ時代を見据えて～」のテーマのもと、令和5年3月4日～5日の2日間にわたりweb開催された。様々な知見や新しい分析技術などの情報提供について企業から演題を募集し、5社から講演をしていただくことができた。本特集号では、そのうち4社についての講演内容を掲載する。

富士レジオ株式会社の中村慎太郎先生には「新しい高感度B型肝炎ウイルスコア関連抗原測定法（ルミパルスプレスト®R iTACT®R HBcrAg）の基礎性能と臨床応用」と題し、B型肝炎のモニタリングに必要なHBcrAgについて、ガイドラインを踏まえながら、測定の意義や試薬の特徴などを講演

していただいた。

シスメックス株式会社の三浦雅央先生には「認知症の血清診断への取り組みのご紹介 HISCL™ β-アミロイド関連試薬を中心に」と題し、アルツハイマー型認知症における脳内病理の変化や、原因病理を推定し適切な治療を行う上で期待されるβ-アミロイドをはじめとする認知症の血中バイオマーカーについて講演していただいた。

株式会社カイノスの伊藤美夏瀬先生には「酵素サイクリング法を原理としたカルニチン測定試薬の紹介」と題し、カルニチンの特性や体内における代謝、また、「カルニチン欠乏時の診断・治療指針」を踏まえながら診断の流れや測定の重要性を講演していただいた。

社会医療法人長門莫記念会 長門記念病院 検査科
〒876-0835 大分県佐伯市鶴岡町1-11-59
E-mail: hamano@nagato.or.jp

Department of Laboratory Medicine, Nagato Memorial Hospital
1-11-59, Tsuruoka-cho, Saiki-shi, Oita 876-0835, Japan

アーケレイマーケティング株式会社の南郷美樹先生には「HbA1c検査でより詳細な情報を得るために」と題し、血球寿命の短縮によるHbA1c低値化の一因である変異ヘモグロビンを精度よく分離検出する測定系の開発、および、データマネージメントシステムの構築について講演していただいた。

各種疾患の早期発見や治療効果の判定、治療指針やガイドラインの改訂などには臨床検査が不可

欠であり、新たな分析技術の確立や新規測定系の開発は企業のたゆまぬ努力によって支えられている。講演していただいた内容は、いずれも臨床の現場ですぐに役立つ内容となっており、今回の企業セミナーがwith コロナ、after コロナへと向かう臨床検査の道標となることに期待する。

本投稿内容に関する著者の利益相反：なし